

◆実践問題34◆

(一条摂政殿が、比叡山・三井寺・奈良の僧たちを集めて読経を行わせた。)

南面の山・池などの、いみじくおもしろきを見

て山階寺の僧中算が言はく、「あはれ、この殿の

きだちは、異所には似ずかし」と言ひけるを、傍ら

に木寺の基僧といふ僧ゐて、これを聞くままに、

「奈良の法師こそ、なほうとき者はあれ。物言ひ

は賤しきものかな。『木立』とこそ言へ。『きだち』

といふらむよな。うしろめたなき言葉や」と言ひ

て、爪弾きをはたはたとす。中算、かく言はれて、

「悪しく申してけり。しからば、御前をば、小寺の

小僧とこそ申すべかりけれ」と言ひければ、あり

1回目
2回目
3回目
4回目
5回目

とある僧どもみなこれを聞きて、声を放ちて、お

びたたしく笑ひけり。

その時に、摂政殿、この笑ふ声を聞き給ひて

「何事を笑ふぞ」と問はせ給ひければ、僧ども、あ

りのままに申しければ、殿、「これは、中算がかく

言はむとて基僧が前にて言ひ出だしたることを、

いかでか心を得ずして、基僧が案に落ちてかく言

はれたるこそ、つたなけれ」と仰せ給ひければ、僧

どもいよいよ笑ひて、それより後、小寺の小僧と

いふ異名は付きたるなりけり。